

社会福祉行政と法政策  
—私たちの暮らしを支える法制度研究—

担当 三輪 まどか（研究室番号 Q6008）

### 1) プロジェクト研究 テーマの設定理由と内容

日頃、皆さんは新聞やテレビ、インターネットなどで、子どもに対する虐待、地域内で孤立する高齢者、障害者に対する偏見などを見聞きすると思います。こうした問題はすべて、わが国における社会福祉・社会保障に関わる問題と言えます。そして毎年、これらの問題の解決へ向けて、社会保障関連法を整備したり、変更したりしています。しかし、単に法を整備・変更をしたからといって、あらゆる人が救われ、助かるとは限りません。法を整える以外に、私たちが暮らし、生きるために、何が必要なのでしょうか？

本プロジェクトでは、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉などの社会福祉分野のほか、介護、医療、生活保護などの社会保障に関する法や制度の概要や背景およびその問題点等を学びます。その上で、あらゆる世代、あらゆる人にとって、暮らしやすい社会となるために必要な法制度の設計と運用を考えていきます。

### 2) プロジェクト研究の進め方

#### ① プロジェクト研究 I

Iでは、あらかじめ決められた報告者（2名程度）が最新刊の『トピック社会保障法』（不磨書房／信山社）の主に社会福祉分野（障害者福祉、子ども支援、家庭支援、社会福祉）と生活保護について授業を行います。報告者以外の方は、必ず当該テーマについて予習をし、1回以上の発言をしてください。

社会福祉の現状・実態を知り、社会的課題を発見するために、福祉施設等などに出向くフィールドワークを実施します。フィールドワークでは、場所により交通費がかかる場合があります。加えて、土曜日に実施されることもあります。

#### ② プロジェクト研究 II・III

II・IIIでは、これまでの学び・経験を踏まえて、最新刊の『変わる福祉社会の論点』を用い、グループディスカッションを行います。このグループディスカッションを通じ、今後自分が取り組みたいテーマを絞っていきます。その後、卒業論文・卒業研究のテーマを決定し、今後どのような勉強・研究を進めていけばよいかの道筋をつけます。

Iに行ったフィールドワークを秋にも実施します。春とは別の福祉の現場に出向き、社会福祉の現状・実態を知ります。フィールドワークでは、場所により交通費がかかる場合があります。加えて、土曜日に実施されることもあります。

### ③ プロジェクト研究Ⅳ・Ⅴ

4年生のⅣ・Ⅴは、3年生のときに決定したテーマを深めるため、まず卒業論文・卒業研究の骨子ならびに研究計画書をたてます。加えて、卒業論文の書き方や資料の調べ方などについても、もう一度復習し、夏休み前までに必要な資料を集めます。

### ④ プロジェクト研究Ⅵ・Ⅶ

4年生の3Qから4Qにかけて、卒業論文を作成し、作成途中で2度発表します。その後、各自研究を進め、20,000字程度の卒業論文を作成します。

## 3) プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

共通教育科目「法学A」のほか、学科科目「行政法」、「行政学」、「人権政策論」、「市民生活と法」を履修している、もしくは履修する予定であることが望ましい。

このプロジェクト研究を希望する場合には、3年次Q2に開講される総合演習B（担当：三輪）を履修すること。

このプロジェクト研究を希望する場合には、公共コースの履修が望ましい。

## 4) プロジェクト研究開始までの準備

使用するテキストは、『トピック社会保障法』（不磨書房／信山社）と『変わる福祉社会の論点』（信山社）ですので、できるだけ最新刊をご用意ください。また、プロジェクト研究開始までに、Iで使用するテキストである、『トピック社会保障法』（信山社／不磨書房）を通読してきてください。自分がどの分野の学びを深めたいのかを明確にしてプロジェクト研究に臨んでください。

## 5) その他

このプロジェクトでは、報告者の報告に対して積極的に発言できる方、教員や同じゼミのメンバーに対して、コミュニケーションがとれる方の参加を希望します。本プロジェクトに参加されたい方は、日頃のあいさつや連絡を心がけてください。

## 6) 選考方法

志望理由書と面接により決定します。

志望理由書には、これまでの自分の経験・体験や学びを通じて、社会福祉・社会保障制度の中のどういった事柄に興味を持ち、自分自身でどこまで勉強したのか、また、その勉強の過程で何について関心や疑問を持ったのかを、必ず記載してください。

面接は対面もしくは Zoom にて行う予定です。

以上